

## 部活動と地域との交流 ～地元で愛される学校を目指して～

県立流山南高等学校

### 1 概要

#### (1) 本校について

昭和58年4月に千葉県北西部にある流山市に全日制普通科として開校した。校訓に「考燃而飛」を掲げ、自ら考え、情熱をもって行動し、飛躍する生徒の育成に注力してきた。基礎的な学力を身に付け、幅広い進路に対応する「教養コース」と県内に3校しかない「スポーツ健康コース」を設置し、特色ある教育課程を展開している。

#### (2) 学校周辺の環境

流山電鉄平和台駅から徒歩3分、武蔵野線・つくばエクスプレス線南流山駅から徒歩15分の距離に位置しており、京成バスや東武バスを使って通学することもできるため、交通の便が非常に良いことも魅力のひとつである。在校生は、流山市をはじめとして松戸市や柏市、野田市に在住している者が多い。学校周辺の環境は、つくばエクスプレスの開通とともに開発が進められている地域のため先進感がある一方、悠々たる江戸川の流れが育んできた水運や緑、文化といった側面が、街に落ち着きをもたらしている。実際に、通学路や教室の窓から見える街の景観に魅力を感じているという生徒の声も聞く。本校のホームページでは、屋上から見た街の眺めを360°VRとして体験できる「RYUNAN パノラマ」として公開しているので、ぜひ御体感いただきたい。

本校の様子をよりみなさんに知っていただくために、「**RYUNANパノラマ**」をスタートします！

記念すべき1回目は、本校屋上からのパノラマをお届けします！

※画像内の矢印をタップすると別角度からの画像が見れます

※スマホの場合は、白いピンを矢印に合わせて別角度からの画像が見れます



#### (3) 入試の状況

本校では、一般入学者選抜の際、学力検査の他、口頭もしくは実技による自己表現を行なっている。令和三年度ならびに令和四年度の入学者選抜においては、320名の募集定員に対して、令和三年度が234名、令和四年度が233名と、受検人数が大幅に下回った。本校の魅力や強みを意

識的に伝え、家庭や地域、関係機関と連携をとって教育活動を展開する必要がある。

#### (4) 部活動加入率の推移

本校では、運動部と文化部あわせて25の部活動があり、これまでもインターハイや関東大会、各種全国大会出場など数多くの輝かしい成績をおさめてきた。ここ数年は、コロナウイルス感染症の影響下で辛酸を嘗めることも多々あったが、諦めず、創意工夫して活動を続けてきた。その成果もあり、部活動加入率は例年60%前後を保持している。今後も、活動内容の更なる向上を目指していきたいと思う。

#### (5) 課題への対応策

本校は、今年度創立40年目の節目を迎えた。立地に恵まれ、特色ある学習課程を展開し、部活動も盛んにおこなって優秀な成績をおさめてきた。しかし、昨今の入学者選抜における受検者数の低下は、無視することのできない課題である。そこで、この場をお借りして本校の魅力を伝えるとともに、より良い学校づくりを目指す機会にしたいと考える。

本年度より公表することが規定された「スクール・ポリシー」において、本校は「家庭・地域・関係機関と連携し、社会に有為な生徒を育む学校づくり」を軸とした教育活動の方針を示している。本校が誇る教育活動のひとつである部活動では、各種大会だけではなく、日頃よりお世話になっている地域の方々との交流を大切にしてお互いの関係性を深めてきた。学校の中だけでは実現し得ない貴重な経験によって、生徒たちの心は確実に成長している。本校では、部活動による地域社会との交流をテーマにその活動内容を振り返って生徒の成長を紹介し、これからの学校像について記述していく。また、部活動だけではなく、本校が日常的に取り組んでいる学習の成果についても紹介する。

## 2 取り組みの成果

### (1) 部活動

#### 【吹奏楽部】

#### ◎取り組み内容

令和4年8月29日(月)～31日(水)の3日間に渡り、流山市立流山小学校吹奏楽部と本校吹奏楽部とで合同練習を行った。事前に流山小学校吹奏楽部の顧問から、9月末に150周年記念式典での校歌演奏を控えていること、また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や対策により、なかなか思うように事前練習ができていないことから合同練習の依頼を受けて、本校吹奏楽部員で練習内容について相談をし、3日間の合同練習では、楽器の基本的な扱い方、手入れの仕方、基礎練習、校歌の練習を行った。感染症対策のため、合奏は行わずに、パートごとの練習に終始したが、このことが本校生徒にとってプラスに働き、一人ひとりが流山小の児童とコミュニケーションを図ることを意識し、リーダーシップや責任感の育成につながった。

#### ◎反響

生徒A「小学生に教えることは初めてだったため、伝えるための言葉選びを工夫した。」

生徒B「教えるごとに小学生達が上達していることを感じられて、とても嬉しかった。」

生徒C「吹き方を教えるだけでなく、合間に会話を挟んで、良い雰囲気や話しやすい環境をつくることも大切だと学んだ。」

生徒D「小学生によって得意なこと不得意なことが異なり、上達の速さにも個人差があるため、

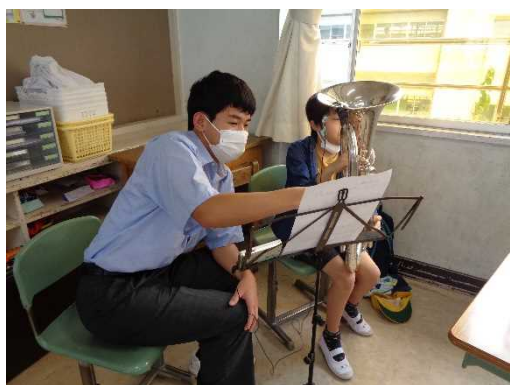
それぞれに合った指導をするのが難しかった。」

生徒E「小学生に教えたことによって、自分もできていなかったり、意識できていなかったりした部分を確認することができた。」

流山小教員A「小学生との合奏はできなかったが、高校生と保護者ボランティア、楽器経験のある教員による校歌の模範演奏を聴けたことによって、児童達も、演奏の完成に向けてゴールが見えた。」

流山小教員B「合同練習後、『高校生はどんな音だった?』『どんな風に吹いていた?』など、指導する際の指標としている。また、基本的な楽器の扱い方から教えていただけたことによって、準備や演奏に取りかかる時間が非常に早くなった。」

流山小保護者「自信がもてず、表情が暗かった児童が、高校生達が沢山ほめてくださったことで自信がつき、表情もとても明るくなった。吹いていて楽しそうな様子が伝わってくる。」



### 【書道部】

#### ◎取り組み内容

令和4年10月2日(日)さわやかちば県民プラザで行われた、書のパフォーマンス発表会に今年度初めて出場した。これまでの活動は、展覧会への出品や校内掲示に留まっていたが、書道部の活性化を図るために、今年度から文化祭や校外でのパフォーマンスを活動内容に取り入れることとなった。部員全員がパフォーマンス未経験であったため、練習開始当初は生徒達も戸惑っていたが、文化祭でのリハーサル、本番と回数を重ねていく度に、墨の濃さや立ち位置の確認等を生徒自身で話し合う場面が多くなり、活動のない日にも自主的に練習を行う等、生徒の自主性・主体性の育成を図ることができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により生徒の活躍の場が少ない中、今回保護者や地域の方に足を運んでいただけたことは非常に良い機会となった。

#### ◎反響

生徒A「これまでは個人で取り組んできたが、今回のパフォーマンスを通して全員の団結力も高まったし、部員の一員であるということを実感できた。」

生徒B「ダンスを取り入れている学校もあり、自分たちも参考にしたいと思った。」

生徒C「当日、1人が欠席し、急遽5人でのパフォーマンスとなり不安もあったが、様々な人数パターンを事前に練習していたため、落ち着いて行うことが出来た。」

生徒D「完成形を評価される展覧会と一連の流れや過程も評価に含まれるパフォーマンス、それぞれに面白さがあり、改めて書道が好きだと感じた。」

保護者「とても素晴らしいパフォーマンスでした。この機会を準備してくださった方々に感謝です。」



### 【サッカー部】

#### ◎取り組み内容

令和3年度から流山市立南部中学校、流山市立北部中学校、船橋市立二宮中学校、中学校クラブチームであるヴィスポとの合同練習を実施している。中学時代から高校のサッカーに触れ、技術力の向上を図ることで、地域全体や高校サッカーのレベルの底上げにつながることをねらいとしている。また、昨年度の合同練習をきっかけに、南部中から1名、北部中から1名、ヴィスポから1名が本校へ入学、サッカー部へ入部するなど、受検生への宣伝効果にもつながっている。今年の合同練習は、以下の通りである。(予定を含む)

|        |           |         |             |
|--------|-----------|---------|-------------|
| 1月 8日  | 流山市立南部中学校 | 5月 28日  | 流山市立北部中学校   |
| 8月 20日 | 流山市立南部中学校 | 12月 10日 | 松戸市立新松戸南中学校 |

#### ◎反響

生徒A「中学生の手本になれるように取り組んだ。入学してから先輩から教わるが多かったが、中学生との合同練習を通して、自分が教える立場に立つことによって先輩たちの大変さを知ることが出来た。」

生徒B『『ポジションどこ?』『いつからサッカーやっているの?』等、質問をして、中学生の緊張がほぐれるよう心がけた。また、何回も同じ学校と合同練習を行うことによって、中学生の成長を感じ、自分も頑張ろうという気持ちになった。』

生徒C「中学校の練習メニューを行ったときに、基礎中心に構成されていたことに気づいた。自分たちの練習メニューにもぜひ取り入れていきたい。」

生徒D「中学時代に合同練習を行った時に、先輩と後輩の仲がとても良く、部活動の雰囲気も良かったので、流山南高校への入学を決めた。」

### 【女子バレーボール部】

#### ◎取り組み内容

令和3年11月7日(日)に、「流山本町合同防災訓練」が流山市立流山小学校体育館にて行われ、女子バレーボール部員が地域の一員として参加した。活動内容は、各自治会から流山小学校に避難してきた方々の案内・検温・消毒や、飲料水配付の手伝い等である。

今回の訓練を通して、防災に関する知識を身に付けることはもちろん、地域の様々な年代や職業の方と接することで「地域の一員としての高校生」としての自分を見つめ直す機会を得るこ

とができた。また「挨拶」「礼儀」「思いやりの心」「奉仕精神」「目配り・気配り・心配り」といった、本校女子バレーボール部の活動目的のひとつである「社会に出てからも役立つソーシャルスキル」の向上にもつながった。

#### ◎反響

生徒A「訓練には、様々な年代の方がいたので、言葉遣いや態度には気を遣いました。例えば、幼い子が来たらしゃがんで目線をさげ、わかりやすい言葉で話すようにしました。」

生徒B「訓練では、障害のある方も避難をしてきました。目や足の不自由な方には、小さな段差も大変そうで、バリアフリーの大切さを学びました。この地域には、様々な方が住んでいることを知る機会となりました。」

生徒C「高齢の方が多く避難しにきていました。学校の前の歩道橋も、渡るのに時間がかかっている様子を見て、校舎だけでなく、地域の仕組みにも工夫が必要だと感じました。」

生徒D「私たち女子バレーボール部は、普段から気持ちの良い挨拶をするように心掛けてきましたが、挨拶をすることは、実際に社会でも大切なことであると実感しました。周囲の方々にお礼を言っていただけのこと、とても嬉しかったです。」



#### 【卓球部】

#### ◎取り組み内容

令和3年度から流山市立八木中学校、松戸市立第三中学校、流山市立東深井中学校と合同練習試合を行っている。練習試合では、中学生が高校生よりも多い状態で試合形式の練習を多く行った。本校生徒は中学生相手にほぼすべての対戦で勝利した。この勝利によって、生徒は自信をつけるが、相手への敬意を忘れず、終始謙虚な姿勢であり続けた。また、中学生は高校生のその姿をみて、高校生を身近に感じるとともに、尊敬のまなざしを向けていた。合同練習試合は今年度も予定しており、日程は調整中である。

この合同練習試合を実施前の学校説明会では、卓球部の部活動体験に参加する中学生は1、2人程度であったが、合同練習試合実施後の学校説明会では、練習試合を行った八木中学校を中心に14名の希望者が部活動体験に参加した。

#### ◎反響

生徒A「中学生が多くて少し緊張したけれど、中学生に恥ずかしい姿をみせないように頑張りました。」

生徒B「中学生とたくさん話をして仲良くなった。年下の人と話をする機会があまりなかったから、どうやって話したら良いか考えるので大変だった。」

## 【野球部】

### ◎取り組み内容

令和3年11月20日に本校最寄り駅である平和台駅前で「たばこポイ捨て禁止キャンペーン」に参加し、平和台駅周辺の清潔感保持を目的としたゴミ拾いを行った。この活動は平和台駅近隣3自治会などが中心となって行われる活動であり、平成28年に流山市議会が開催した「高校生議会」で本校生徒が平和台駅周辺のたばこのポイ捨てについて質問したことがきっかけで平成29年より行われており、本校は平成29年より毎年参加している。

また、令和4年10月9日には、本校近くの赤城神社で大しめ縄行事が行われ、地域の皆様と大しめ縄を作り掛け替えに参加した。この行事は新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催であった。周囲の自治会や氏子の皆様、約300人総出の行事である。野球部生徒は、日頃の活動で鍛えた力で稲ワラを叩いてつぶし、結びやすいようにする手伝いの他、しめ縄を作る際に細いワラで固く結んでいく作業に協力した。

### ◎反響

#### ポイ捨て禁止キャンペーン

生徒A「ポイ捨てされているたばこが想像以上に多くて大変だったけれど、一緒にゴミ拾いをした方に感謝されてうれしかった。」

生徒B「ゴミ拾いが大変だった。ポイ捨てされるゴミを減らさないといけないと思ったので、周囲の人にポイ捨てしないように声かけをしていきたい。」

地域住民「広い場所を拾ってまわったので、高校生が多く来てくれて助かりました。」

#### しめ縄行事

地域住民A「野球部のみんながいてくれたおかげで順調に作業が進められた。」

地域住民B「野球部は力があって心強いね。」

生徒C「どの作業も力を使うものだったのですごく疲れたけれど、大人の手助けができてうれしかった。」

生徒D「地域の人に、手伝ってくれて良かったと言われてうれしかった。来年もあるなら行事に参加したい。」

## 【女子バスケットボール部】

### ◎取り組み内容

令和4年10月8日（土）午前9時より本校体育館にて柏市立風早中学校と柏市立酒井根中学校の女子バスケットボール部と交流試合を行った。ここ数年のコロナ禍で、大会や練習試合の中止、規模縮小を経験してきた生徒たちにとって、久々の異校種交流は、学びと発見にあふれた心躍る経験となった。

当日は、活気あふれる雰囲気の中で、それぞれがベストを尽くして試合に臨んでいた。本校の生徒は「高校生として負けられない」という思いを強く持つとともに、自身が中学生であった頃を振り返って初心を思い出したり、成長を感じたりしていた様子であった。中学生にとっては、数年後の自分達の姿を想像し、進路について思いを馳せる機会となったのではないだろうか。異校種だからこそその発見が、生徒を成長させたことは間違いない。今後も、バスケットボールを通じた交流を経て、中学校と高等学校との絆をつくることを目指す。

なお、この交流試合は、生徒の安心安全を第一に、感染対策を講じておこなったものである。

#### ◎反響

生徒A「中学生との練習試合で、前よりチームとして成長したなと感じました。一人一人が試合中に声かけを行っていたので、そこが良かったなと思います。また、個人としては新たな課題ができたので、そこを改善したいと思いました。」

生徒B「今回の練習試合で、試合中のコミュニケーションの大切さや、相手との意思疎通の大切さがしれました。大会に向け、しっかりと練習しようと思います。」

生徒C「中学生とやって最後まで諦めないことを学んだ。ピンチの時とかに声掛けするようになった。」

中学校顧問「高校生は、中学生に比べて体が大きいため、フィジカル面での勉強になった。バスケットボールが好きで高校でも続けている子達だと思うので、ディフェンスの際の気持ちの持ちようも違っていたと思う。中学生には、そのような姿を見せて話をすることができた。また交流試合をしたいと思う。」

#### 【地域との交流による生徒達の成長や変化】

地域との交流や合同練習等、様々な活動の中で、生徒自身が地域の方との関わり方や活動の取り組み方について考える姿や場面が多く見受けられた。また、交流の中で感じたこと、学んだことを今後の部活動や学校生活に活かそうとする姿が見受けられたことも非常に大きな変化である。「主体的に取り組む」ことは、本校生徒にとって大きな課題であるが、生徒の考えや思いが相手に伝わる、形にできる機会が、生徒の主体性や責任感の育成へとつながることを、生徒の姿や今回のインタビューから感じ取ることができた。

部活動に加入している生徒を中心に、学校や地域の更なる活性化を図り、今後も地域交流を継続していく。

#### (2) その他の諸活動

#### 【漢字力の強化】

「学力向上」に向けた取り組みの一環として、すべての基本である国語力の育成（特に漢字力の強化）に取り組んでいる。検定に向けた校内テストを年間6回実施し、在学中に3級以上の合格を目指している。しかし、令和3年度の合格者は、令和2年度と比較し大幅に減少してしまった。その要因として推測されるのは、単純な漢字の読み書きに終始したテスト内容である。対策として、今年度から年度最後の校内テストをプレ漢字検定に変更し、過去問題を解くことで実際の試験問題に慣れること、また、漢字や熟語を単に覚えるだけでなく、その語句の意味や使い方を合わせて学習することで理解を深め、合格者の増加に努めたい。

#### 【習熟度別授業】

基礎学力の定着を図るために、新たな取り組みとして、今年度から数学Iで習熟度別授業を行っている。生徒からの反応は、「授業のペースがゆっくりで、先生が一つひとつ丁寧に解説してくれるので助かっている。」「一斉の授業よりも、分からないことを質問しやすい環境である。」「モチベーションが上がり、授業に対する理解度も上がってきていると感じている。」といった前向きな意見がある一方、「2学期から習熟度の高いクラスに変わったが、授業について行くのが大変だと感じている。」「友人同士で教え合う場面が少ないのが残念だ。」といった意見もあり、課題が見

えてきたところである。1学期から2学期でクラスの入替わりが発生した生徒に対しての指導方法や学習方法についてしっかりと検討し、生徒の学力向上につなげていく。

【キャリア教育】

本校では、個々の興味や関心に応じたキャリア教育を推進している。一人一人が自分を知り、それぞれの目標を設定して、自ら課題に取り組んでいく。

|     |  |
|-----|--|
| 1年次 | 基礎力診断テスト（年2回）、実力診断テスト、性格診断テスト、キャリア講座、職業人講演会                          |
| 2年次 | 基礎力診断テスト（年2回）、実力診断テスト、進路適性検査、キャリア講座（年2回）、進路ガイダンス                     |
| 3年次 | 実力診断テスト、SPI対策講座・模試、分野別進路ガイダンス、小論文講座、進路相談会、面接対策講座（進学・就職向け）、保護者向け進路説明会 |

(3) 令和3年度 進路状況

専門学校・・・52.7%      就職・公務員等・・・21.9%  
 大学・短大・・・22.5%      その他・未定・・・2.9%

(4) 令和3年度 主な進路先（五十音順）

|       |   |
|-------|---|
| 大学・短大 | 育英大学、江戸川大学、開智国際大学、神田外語大学、敬愛大学、国土館大学、秀明大学、淑徳大学、白梅学園大学、駿河台大学、聖徳大学、創価大学、大正大学、拓殖大学、千葉科学大学、千葉経済大学、千葉工業大学、千葉商科大学、中央学院大学、帝京科学大学、帝京大学、東京音楽大学、東京国際大学、東洋学園大学、日本工業大学、日本薬科大学、文京学院大学、流通経済大学、麗澤大学、和洋女子大学、他                                      |
| 専門学校  | 香川調理製菓専門学校、神田外語学院、コーセー美容専門学校、国際航空専門学校、さいたま柔整専門学校、尚美ミュージックカレッジ専門学校、スカイ総合ペット専門学校、駿台トラベル&ホテル専門学校、専門学校 日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ、千葉・柏リハビリテーション学院、東京ウェディング&ブライダル専門学校、東京教育専門学校、東京デザイナー学院、東京服飾専門学校、東京法律公務員専門学校、東放学園映画専門学校、日本工学院専門学校、日本鍼灸理療専門学校、他 |
| 就職    | (医) 柏水会、(一財) 航空保安事業センター、(株) GU、(株) イトーヨーカ堂、(株) 稲葉製作所 柏工場、(株) エディオン、(株) 千葉マツダ、(株) 電洋社、(株) 日立物流首都圏、(株) ヤオコー、(福) 長寿の里 かしわ翔裕園、柏の葉駅前歯科、西濃運輸(株) 市川支店、セコム(株)、東葉警備保障(株)、トヨタカローラ千葉(株)、日本郵便(株) 関東支社、山崎製パン(株)、自衛隊、千葉県警察、消防署、他                |



### 3 卒業生の声

#### 令和2年度卒業生

「私は中学生のとき、あまり自分の意見をはっきり言えない性格でしたが、流山南高校に入り、生徒会のメンバー、先生方と仕事をする中で、少しずつ自分の意見をはっきり言えるようになりました。時には大変なこともありましたが、流山南高校の先生方や、クラスメイトが親身になってくれたおかげで、私は中学生の時とは違い、たくさんの挑戦ができたと思います。」

#### 令和3年度卒業生A

「私は流山南高校に入学し、中学校で3年間続けていた陸上部に入部しました。陸上部はとても部員が多く、県大会に出場する生徒もたくさんいます。夏は暑い中の練習でつらいときもありますが、個人やチームの目標達成のために、全員で競い合いました。そのため、個人としてもチームとしても強くなれました。皆が楽しんで活動できるのも、流山南高校のよいところだと思います。」

#### 令和3年度卒業生B

「私は指定校推薦で国士舘大学を受験しました。国士舘大学は、毎年学年1位、2位の生徒が推薦をもらっていると知り、推薦を目指して勉強しました。勉強と平行して、夏休みは先生に何度も小論文の添削をしていただき、そのおかげで、自分でも手応えを感じられるようになりました。また、校内選考が決まってからも、面接練習で先生方にご協力いただきました。」

### 4 広報・報道状況

各部活動の大会や行事後には、学校ホームページにて写真等を掲載して広報活動をするように心掛けている。実際に写真を載せることによって、中学生や近隣の方々に学校の様子を知ってもらい、本校に対する興味や関心を喚起させようという狙いである。

■ 2021/11/25 ■ たばこポイ捨て禁止キャンペーン！

| by トビックス投稿

皆様、こんにちは。

今年で5回目を迎えた『たばこポイ捨て禁止キャンペーン』に、本校の代表として野球部が参加し、平和台駅周辺を綺麗にしました。

本日は、根郷町会・宿連会自治会・流山9丁目自治会の皆様と一緒に、平和台駅周辺の清潔感の保持を目的にゴミ拾いをしてきました。

このような活動を通して、自分たちが通う学校が存在する地域に誇りをもち、より一層流山市のまちづくり、環境美化の更なる発展の力になりたいと思います。

地域を愛し、地域に愛される学校を目指してこれからも活動していきます。



関東選手権が終わりました。

本校からは「男子三段跳」「女子やり投」「男子3000mSC」「男子5000m」「女子3000mSC」に出場しました。

《結果》

女子やり投

蒔田七星③(流山北部中出身)

40m55 第6位

インターハイ後の反省が生かされた試合展開でした。試合中もよく落ち着いて競技をし、安定した記録で見事6位に入賞しました。自身の反省でも「落ち着いて投げれた」と話しており、全国の舞台で戦ったことが陸上選手として大きく成長したところが見られました。



## 5 今後の方向性

新型コロナウイルス感染症による教育活動の制限が少しずつ緩和され、地域との交流の機会を取り戻しつつあるが、残念ながら実現し得なかった取り組みも多くある。だからこそ、一つひとつが貴重な機会であることを自覚して、今後も地域との交流を一層大切にしていきたい。

部活動を通じた地域との交流において、生徒達は地域の多様性に触れながらその都度どのような関わり方が最適であるのかを考え、行動する場面が多く見受けられた。多くの生徒たちが校訓である「考燃而飛」を実践し、主体的に行動できたという経験は、生徒の自己有用感や自己肯定感を育み、学校生活に還元されている。

また、部活動だけではなく、日常行われている教育活動においても、生徒の進路実現に向けた取り組みを行ってきた。今後も一人ひとりの興味や関心に寄り添いながら「自己を知り、可能性を追求する心」を養えるよう指導に当たっていく。

概要でも述べたとおり、本校では昨今の入学選抜における受検者数低下が課題ではあるが、入学後の高校生活を様々な意味で豊かなものとしてもらえるように教育活動を行っている。これからも、地域との交流を通じて生徒の成長とともに学校・地域の活性化を図り、更に地元に愛される学校づくりを目指す。